

タングステンの1～3月相場予測 AMJ西野氏寄稿

中国相場上昇もAPT国際相場の動きは限定的

タングステンの中間原料・APTの国際相場（パラタングステン酸アンモニウム、ヨーロッパ・アメリカ）は、22年4月に350ドル/Mtuを突破した後、緩やかな調整に入ったものの、足元では330～340ドルと依然高値で推移する。一方、鉄鋼原料のフェロタングステン（FeW）は、主要産地のロシアが22年2月にウクライナに侵攻した影響から供給不安が強まり、3月には50ドル/kgWを突破したが、以降は調整に転じ、足元では38ドル前後とウクライナ侵攻前の水準まで戻っている。タングステンの世界需要は、主用途の超硬工具が20年後半から復調し、22前半まで堅調に推移してきた。だが、ウクライナ問題の長期化に代わり、中国で新型コロナウイルス感染拡大により都市封鎖が相次ぐなど、自動車各社が半導体や部品の不足に陥り減産幅を拡大。さらにエネルギー・資源価格の高騰などにより世界経済の減速感が強まり、タングステン需要も減少傾向にある。レアメタルの専門商社・アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）で長らくタングステンの中間原料・合金鉄・スクラップを取り扱ってきた西野元樹・本部長に今年1～3月の相場見通しを寄稿してもらった。

中国内と欧米の価格差が縮小するまで相場は現状維持

中国内では、足元で春節（旧正月）前の供給タイトな状態が続いており、精鉱・APT相場ともに上昇傾向にあるが、まだ中国内相場と国際相場の差が大きく、APT国際相場は両相場間の差が縮小されるまで反転することは考え難く、今年1～3月のAPT国際相場は320～350ドルの極めて狭いレンジで推移すると予想する。